

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2021/8/28 ～2021/9/30)

1. 勉学の状況

私はコンコルディア大学ウィスコンシン校で政治学を専攻しており、Intro Political Science や Public speaking、Intro to Writing in English といった必修科目と、興味があった Modern Historical Japan を秋学期で受講しています。コンコルディアで開講されているクラスの多くが対面授業であり、私が受講中の授業も全て対面授業です。授業は基本的に3単位で、月水金に50分間、もしくは火木に75分間で行われます。課題の量は、授業ごとに異なりますが、私が受講しているクラスでは多くは出されません。しかし、私は授業内容を授業内だけで全て理解できるわけではなく、各授業の先生方から許可をいただいて授業を録音し、授業後に聞き直して復習するため、結局のところ机に向かう時間は長いです。一部の授業では、授業内で先生が板書をするのが少ないため、リスニングだけで授業内容を理解しなければならず、また政治学に関する専門用語が多く使われるため、授業についていくので精一杯です。しかしながら、授業内では、学生は積極的に自分の考えを発言し、学生同士のディスカッションや先生との対話を通じて授業が進められていくことが多く、とても刺激的な授業を楽しんでいます。また学内にある図書室はほぼ毎日深夜12時まで開いており、自学自習の環境がしっかり整えられています。授業で使用する教科書は、学内のブックセンターや、大学のオンラインサイトを使用するか、もしくは大学の公式アプリを通じて、学生間でいらなくなった教科書や日用品を売買することが出来ますので、そこで教科書を調達します。

2. 生活の状況

コンコルディア大学には私以外日本人がいませんので、普段日本語を使用する機会は全くありません。みなとても親切で、一度も話したことの無い学生でも、何か困ったことがあれば、親身になって色々教えてくれます。渡航して数週間は現地の学生の話す英語が分からないこともかなりありましたが、コミュニケーションを多くとるうちに、少しずつ耳が慣れてきました。まだまだ十分にコミュニケーションを取れるわけではないですが、バスケットボールをしたり、大学のイベント運営委員会に加入し、その活動等に参加したりすることで、現地の学生と上手くやっけていくことができています。また、私は大学構内にある二人部屋の寮で生活しています。洗濯機・シャワー・トイレは、寮の各フロアで共有します。一人部屋もありますが、必然的に現地の学生とコミュニケーションをとる機会が増えるため、共同部屋で正解だったと思います。日々の食事は基本的に、大学構内の大食堂かハンバーガー屋でとります。また、最近健康に気を遣って、大学構内にあるジムに毎日通っています。アメリカの学生は男女ともに身体を鍛える人が日本よりも多いように感じます。特に普段生活していて困ることはありませんが、他国からの留学生を含め、英語が堪能な生徒がほとんどで、彼らとのコミュニケーションをもっと楽しめるよう、英語力を向上させていきたいと思います。

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2021/10/01 ～2022/01/04)

0 . はじめに

コンコルディア大学ウィスコンシン校に派遣された千葉大生は私が最初ですので、なるべく多くの情報・写真等を報告書に残そうと思います。私の報告書を通じて、コンコルディア大学の雰囲気を知っていただければと思います。

1 . 勉学の状況

秋学期が終わりました。12月の中旬ごろから1月の中旬ごろまで約1ヶ月の冬休みです。秋学期ではアメリカでの授業になれることを第一に考え、基礎的なライティングやスピーチの授業を含む4クラスを受講していました(すべて対面授業)。そのうち、政治学と日本史の授業が大変でした。課題や授業を通して、千葉大学よりも多くの文献を読まねばならず、学んだことをしっかりと暗記して知識として蓄える必要があると感じたからです。例えば日本史の授業では、毎週2・3本の文献を読み授業の準備をしたうえで、授業では学生との対話を通して、文献内容の確認と、先生による解説を通して知識の補足をしていくといったかたちです。日本史の先生は、話すスピードが速いうえに、英語に訛りがあるので授業についていくのはとても大変でしたが、授業を録音して後で復習をするようにしていました。文献の読解と授業の復習にはかなりの時間をとられますし、期末レポートもかなりの量を書くよう求められたので、1学期を通してとても大変でした。また、政治学の授業では、中間・期末レポートに加えて、テストも学期内で2回ありました。出題内容は政治思想やその語句の定義・説明の記述問題と自分の意見を書くエッセイの2つのパートに分かれています。しっかり準備すれば問題ないとは思いますが、他のクラスメイトとテスト勉強などをして、テスト前に分からないところを解決しておくことで安心できますし、アメリカの学生と交流もできるので良いと思います。授業の復習や課題、テスト勉強などについていくのは大変でしたが、学期終盤になっていくと慣れました。また、どのクラスの先生も授業中に板書をせず、授業内容は全て口頭で説明していましたので、授業を理解する際に視覚情報に頼れず、とても大変でした。先生方の話すスピードは思っている以上に早いですし、話す英語に訛りがあることもありますので、許可をとって授業の録音をし、授業後に復習をすることが授業にスムーズについていくことに有効だと思います。加えて、留学に行く前に千葉大学のオールイングリッシュの授業を積極的に受講すべきです。私は法政経学部にも所属しており、専攻は政治学ですので、渡米前に「外国語演習」と「外国事情」という授業を受講していました。これらの授業はオールイングリッシュ・アメリカの大学の授業に近い英語スピードで、政治学を扱う授業でしたので、渡航前に英語での授業に慣れるのに役立ちました。

2 . 生活の状況

まず、コンコルディア大学の特徴について何点かに分けて説明しつつ、普段の生活についてお

話していこうと思います。

<コンコルディア大学の特徴>

① キリスト教

コンコルディアの最大の特徴は、キリスト教色が強い大学であるということです。学内にはとても立派なチャペルがあり、平日の朝は多くの学生がチャペルにいるのを見かけます。アメリカの人口の半分以上はクリスチャンですが、コンコルディアは特にクリスチャンの割合が多く、クリスチャンでない学生を見つける方が困難です。牧師を目指してコンコルディアで勉強している学生もいます。ですので、キリスト教についてある程度理解をしておくべきですが、それに加えて、日本の宗教もしっかり勉強しておくべきです。コンコルディアの学生の中には、キリスト教だけでなく、日本を含め他宗教にまで興味関心を持つ人がいるからです。特に日本の宗教はとてもユニークですので、アメリカの学生に説明できるようにしておくのと彼らの関心を引けると思います。



↑ 構内のチャペル

② 立地

続いてコンコルディアの立地について、大学内のキャンパスから、ミシガン湖を一望することが出来ます。その景色はとても綺麗で、朝、湖岸を散歩するのがとても気持ちよいです。ただ、コンコルディア大学があるメクオンという都市は、ウィスコンシン州最大の都市であるミルウォーキーから遠く離れているうえ、どこに行くのにも車が必要です。キャンパス内に簡易的なコンビニエンスストアはありますが、商品の値段は高いですし、品揃えもよくありません。近くのスーパーに行くためには、友達に車で連れて行ってもらうか、大学からもらえるタクシーチケットを使うか、Uberを使うかしなければなりません。ですので、気軽に大学周辺を観ることが出来ないのは、残念なポイントです。



↑左の建物が寮で、右に写るのはミシガン湖。とてつもなく大きいです。写真下部の階段から、水平線から浮かび上がる日の出を見ることができ、とても綺麗だそうです。

③ 食事

コンコルディアの食事について、寮に住む学生は基本的にキャンパス内の食堂を使用します。食事はすべて食堂で済ますことができますので、自炊スキルは基本的に必要ありませんが、冬休みは食堂がしまっているため、自炊の必要が出てきます。正直なところ、日本が恋しくなることはあまりありませんが、日本の食事はとても恋しいです。アメリカの食事もおいしいですが、私は、やはり日本食の方が自分に合っていると感じます。しかしながら、残念なことに私は料理経験が乏しいので、自分で作った日本食の味に満足できません。美味しい日本食を作れるようにしておくべきだったと感じています。また、日本食を現地の学生や他の留学生にふるまえるようにしておくと、喜ばれると思います。私は肉じゃがを作りました。



↑コンコルディアから唯一徒歩で行くことができるであろうレストラン。自炊をしたくないときは友達とよく行っています。ハンバーガーが美味しかったです。



↑冬休みは自炊しています。スーパーのお肉全般が安いです。フライパンや包丁等の基本的な調理器具はどの寮にもそろっています。炊飯器は寮によってあったりなかったりします(私が滞在している、Wittenberg と呼ばれる寮には無い)。Wittenberg に滞在することが決まった場合は炊飯器を持参してもよいかもしれません。

④ 寮

最後に、コンコルディアの寮について説明します。キャンパス内には8つの寮があり、多くの学生(現地の学生を含む)がいずれかの寮にすみます。重要なのは寮によって、施設や環境が異なるということです。私は Wittenberg という寮で現地の学生2人とシェアルームしています。Wittenberg は、1,2年生向けの寮で、他の寮に比べると人気がない?印象があります。人気な寮は、自分専用の部屋や専用のシャワールーム、トイレが部屋に設置されています。しかしながら、Wittenberg は比較的狭い部屋に2~3人で共同生活しなければなりません。おまけに、1,2年生向けの寮なので、夜は廊下で騒いだり、おもちゃの銃で銃撃戦をしたりしている学生がおり、その音が自室にまで聞こえてくることもあります。静かな環境でないと眠れないという人は、ストレスがたまるかもしれません。また、シャワールームやトイレは綺麗ですが、共同で使います。そして何より、他学生と1年間1つの部屋で生活するという事は、必ずしも自分の好む環境を整えることができるとは限りません。私のルームメイトの1人は、部屋の中で友人とオンラインで会話しながらビデオゲームをよくやっています。以前、深夜に大きな声でゲームをしていることもあり、眠れないことがありましたので、夜中の0時以降はなるべく音をたてるのをやめるというルールを提案しました。日本人相手だと、人間関係にひびが入ることを心配して何も言わずに我慢し、察してもらうまで待つこともあると思いますが、アメリカでは何も言わずに察してもらうことは難しく、しっかりとコミュニケーションをとることが必要になります。私のルームメイ

トは、私がした提案にしっかり耳を傾け、承諾してくれました。そのルールを作った後でも、彼と上手くやれています。Wittenberg は他学生と共同生活しなければならないので、ストレスがたまるかもしれませんが、現地の生徒とコミュニケーションをとる機会が増えますし、現地の学生との共同生活から得られる学びは多いと思います。

最後に、語学力に関してお話しします。

< 語学力 >

アメリカでの授業、異文化交流、他学生とのコミュニケーションを楽しむうえで、やはり語学の壁を乗り越えることは留学生に課された難題のうちの1つだと思います。実際、私も留学当初は、現地の人話す英語のスピードや訛りについていくのに大変でした。しかし、渡米して4ヶ月がたちますが、コンコルディアでの生活を通して、彼らとの会話を十分に楽しめるようになってきたと思います。というのも、コンコルディア大学には私以外に日本人はいませんので、日本語を使う機会が一切ありませんし、私が住んでいる寮は3人部屋で常に英語でコミュニケーションをとらねばならない環境にあるからです。(ちなみに、私は、コンコルディアに来る日本人留学生第1号でもありますので、私が留学した年は偶然日本人が少なかったということはないと思います。)日本人が周りにいない環境にいと、語学力も比較的伸びやすいですし、アメリカ文化にどっぷりつかることができると思います。自分の語学力に不安があり留学をしようか迷っている方もいるかと思いますが、どれだけ語学力を渡航前に身につけても、留学中に現地で必ず語学の壁にぶつかり続けると思いますので、そこまで気にしなくて良いと思います(もちろん、渡航前に出来るだけ語学力を身につけた方が留学を楽しめる)。



↑サンクスギビングの時の食事。アメリカでは、11月末のサンクスギビングやクリスマスでは家族で過ごすことが多いです。私は、他の留学生と、現地の学生のご自宅にお邪魔しました。

3. おわりに

留学を通して、コミュニケーションや英語力で上手くいかないことも多々ありますが、毎日とても充実した生活を送ることができています。私が千葉大学に入学したのはコロナウイルス感染症が流行りだした2020年ですので、対面授業を日本で受けたことがほとんどありませんでした。しかし、コンコルディアの授業はほとんど対面で行われていますので、より授業が楽しく感じます。アメリカでの留学生生活を最後までしっかり楽しみたいと思います。



↑大都市ミルウォーキーに行ったときに寄ったアイスクリーム屋さん。ミルウォーキーでは有名なお店らしい。真冬の夜にもかかわらず、お客さんの数は少なくなかった。